

ともに生きる

JCI認定取得
特別号

三井記念病院 JCI認定取得



患者さんへのお願い

三井記念病院では、患者さんの安全を第一にするため、JCIの基準に準拠し、以下をお願いしております。何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

お願い① 患者確認(フルネームと生年月日)

患者さんの誤認防止のため、患者確認を実施しております。治療・検査・処置を受ける際には以下を確認させていただきます。

【患者確認方法】

- ①お名前をフルネームでおっしゃってください
- ②生年月日をお伝えください



何度もお尋ねして申し訳ありませんが、ご協力をお願いいたします。

お願い② 転倒転落防止(黄色いリストバンド)

患者さんの安全を守るため、転倒転落事故の防止に努めています。転倒の危険リスクが高いと判断した患者さんには、黄色いリストバンドをつけ安全の見守りをさせていただきます。

【一例】

- ▶杖を使用している方
- ▶車椅子を使用している方
- ▶歩行器などの歩行補助具を使用している方
- ▶明らかなふらつきがある方



社会福祉法人
三井記念病院

〒101-8643 東京都千代田区神田和泉町1番地 TEL:03-3862-9111(代表)
<http://www.mitsuihosp.or.jp/>

三井記念病院は2016年11月、 国際的な医療施設認証機関である JCI (Joint Commission International) の 認定を取得しました。

三井記念病院は、病院・大学病院プログラムとしては日本全国で17番目、都内では5番目の認定取得となります。今回のJCI認定を新しいスタートラインとし、患者の安全と医療の質の更なる向上に職員一同全力で取り組み、当院の理念でもある患者と「ともに生きる」医療をこれまで以上に実践してまいります。



Organization Accredited
by Joint Commission International

JCIとは

JCIとは、米国の医療施設を対象とした第三者評価認証機関であるThe Joint Commissionの国際部門として、1994年に設立された非営利組織Joint Commission Internationalの略称です。

「国際社会における患者の安全と医療の質の改善」を目的として、世界各国の医療機関を対象に、認定活動やコンサルティングを行っています。

世界基準の質を担保し、安全な医療を提供していると認められた施設にJCI認定が与えられます。これまでにアジア、ヨーロッパ、南米など世界各国で895の施設が認定を受けています。(2016年12月9日現在)

JCI認定のための審査は医療の質・患者さんの安全に対する取り組みの状況や手順を重視しているのが特徴です。実際の審査では現場主義が徹底され、審査官は院内で多職種がどう連携しているかなどを細かくチェックします。例えば、患者さんが入院し、どのような過程を経て退院するのかを実際に病棟などを訪問しながら、カルテの記載内容の確認や、職員へのインタビューを通じ、一貫性のあるケアがなされているかを審査(トレーサー)します。審査対象は診療現場・医療職だけではなく、病院内全ての場所、全職員が対象となります。

JCI認定取得の道のり

三井記念病院がJCI認定取得を目指し始めたのは、2013年12月でした。各部署が旧来の体制を世界標準の観点から見直し、より質の高い医療実現のため本格的に動き出しました。

2015年6月にモックサーベイ(模擬審査)、2016年5月にコンサルテーションを受け、JCI認定の本審査に向けて準備を進めました。そして2016年11月14日から6日間、アメリカ・ブラジル・インドの医師や看護師ら3人が審査官として来日し、本審査を受審しました。

審査官は方針・手順書の内容がJCIの定める基準を満たしているか、トレーサーを連日行いました。その他にも感染対策や薬剤管理に関するディスカッション、院内施設訪問、職員の資格確認など様々な審査が行われました。このような審査の結果、11月19日にJCI認定を取得しました。



JCI評価基準

JCI認定の審査項目は、患者さんを中心とした基準が8領域(第1章~8章)、医療機関の管理基準が6領域(第9章~第14章)の合計14領域あり、合計1,146の判定項目があります。

第1章 国際患者安全目標(IPSG)

第2章 ケアへのアクセスとケアの継続性(ACC)

第3章 患者と家族の権利(PER)

第4章 患者の評価(AOP)

第5章 患者のケア(COP)

第6章 麻酔と外科的ケア(ASC)

第7章 薬剤の管理と使用(MMU)

第8章 患者と家族の教育(PFE)

第9章 品質改善と患者安全(QPS)

第10章 感染の予防と管理(PCI)

第11章 組織管理(GLD)

第12章 施設の管理と安全(FMS)

第13章 職員の資格と教育(SQE)

第14章 情報の管理(MOI)



JCIは
患者と「ともに生きる」を
実行するためのひとつの手法。
高本眞一
三井記念病院院長

— JCI認定取得を目指された理由をお聞かせください

当院の理念は「ともに生きる」です。これは当院で働く職員一人ひとりに医療人としての行動の根底にあるべき考えとして掲げてきました。しかし、どのように患者さんとともに生きるかは各個人や部門の考えや倫理観に任せて明文化していませんでした。

一方JCIの認定基準は、患者さんの安全を第一に医療の質を高めることを詳細にリスト化し基準にしています。この基準に沿って職員全員で病院の仕組みを改善していくことが、当院の理念「ともに生きる」を実現する一つの方法になるのではないか、と確信しJCI認定取得を目指すことにしました。

— JCI認定を取得されましたが、院内にはどのような変化がありますか?

職員一人ひとりが、病院をより良くしよ

うと、問題意識を持つようになったと思います。これまでは既存のルールに沿って日々の仕事に取り組んできましたが、JCIの基準は非常に詳細で、工程の各所に「なぜ?」「どうして?」と、行動を意味づける必要が出てきました。そうすると、「患者さんのためにはこうしたほうがもっと良くなる」など問題意識と改善への意欲が高まり、院内全体がレベルアップしているように感じました。

— 患者さんにメッセージをお願いします

JCIは、患者さんに安全な医療を提供するよう改善を促しているものです。JCI認定を取得できたから当院の安全は100点というものでは決してありません。まだ改善していくべき内容はたくさんあります。しかしこの認定をきっかけに当院の安全意識は向上したことに間違いありません。今後も患者さんとともに生きる医療を提供するため職員一丸となり努力し続けていきます。

JCI認定取得について高本院長と原副院長(JCI受審リーダー)にインタビュー

— JCI認定取得の最も高いハードルはどのような点でしたか?

当院は、これまで日本の病院を対象にした病院機能評価に準拠してきましたが、JCIはグローバルスタンダード(世界標準)です。これには相当な意識改革が必要でした。国内の病院は職員も患者さんもほとんどが日本の方であるため、詳細までルール化しなくても病院としての機能は満たせていました。いわゆる「あうんの呼吸」で通じていたのです。しかし、社会は急速にグローバル化していますし、2020年には東京オリンピックも開催されます。病院とはいえ、医療の質やサービスを向上しなければならない状態に変わってきています。JCI認定取得は、当院の職員一人ひとりに「現状維持ではなく、変わらなげやいけない!」という意識を浸透させる大きな機会となりました。

また、JCIは大変厳しい基準ですので、認定を取得できたことは、職員の仕事への自信にもつながったと思います。

— 今後の取り組みについてお聞かせください

JCIは認定がゴールなのではなく、あくまでも国際基準に沿ったということに他ならないと思います。今回の認定取得は、当院がより良い病院になっていくための再スタートです。職員全員が今後も常に医療の質の改善に取り組み、新入職員にもしっかりと教育をする体制を整えることが、患者さんにより良い医療を提供することにつながると考えています。

— 患者さんにメッセージをお願いします

より安心して医療を受けていただく環境を整えることができました。安全な医療を提供するために本人確認をお願いしています。受付や診察、検査、会計の際にフルネームと生年月日をお聞きしています。煩わしいとお感じになるかも知れませんが、同姓同名患者さんや聞き間違いによる患者誤認の防止につながります。今後ともご協力をお願いします。

JCI認定取得には、
病院の全職員一人ひとりの
意識改革が必要でした。

原和弘
三井記念病院副院長

